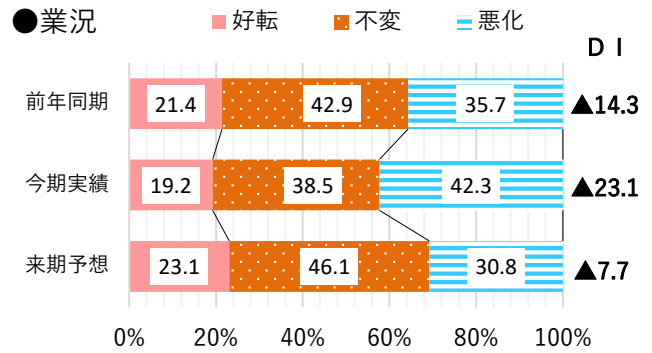


小 売 業

業況、売上、採算

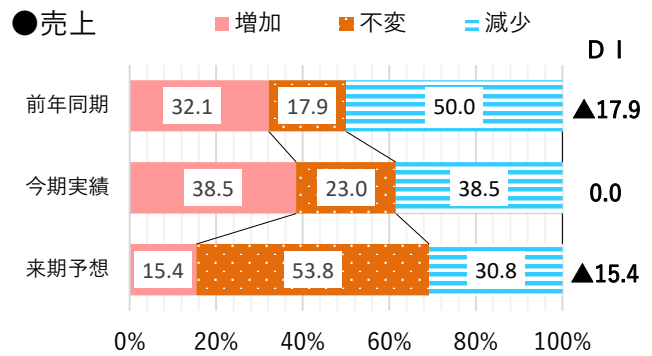
今期(2022.10~12)の業況判断DIは▲23.1で、前年同期(2021.10~12)と比べ8.8ポイント低下しました。

来期(2023.1~3)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



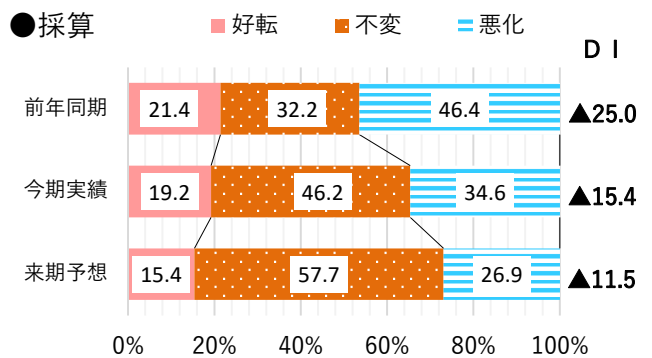
今期の売上高DIは0.0で、前年同期と比べ17.9ポイント上昇しました。

来期は、売上がマイナスに転じると予想しています。

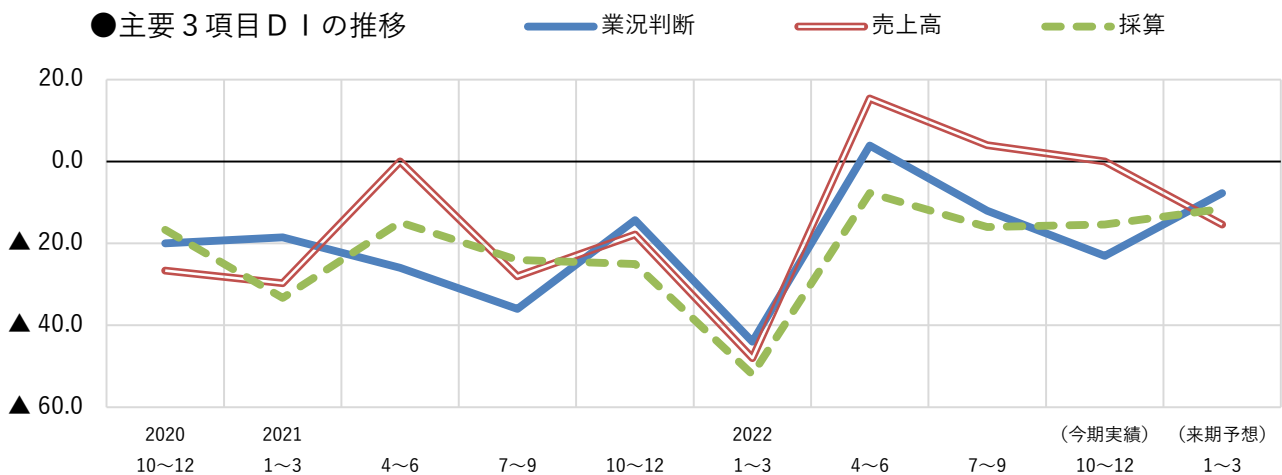


今期の採算DIは▲15.4で、前年同期と比べ9.6ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



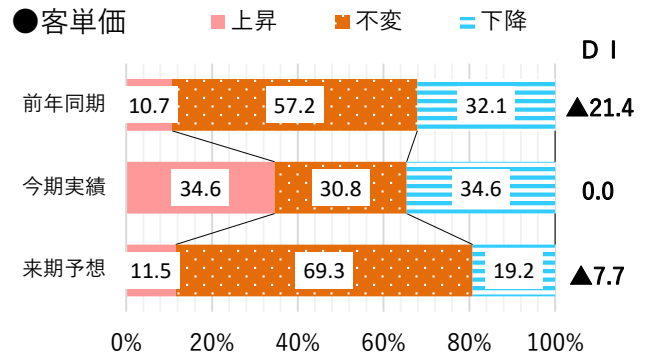
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

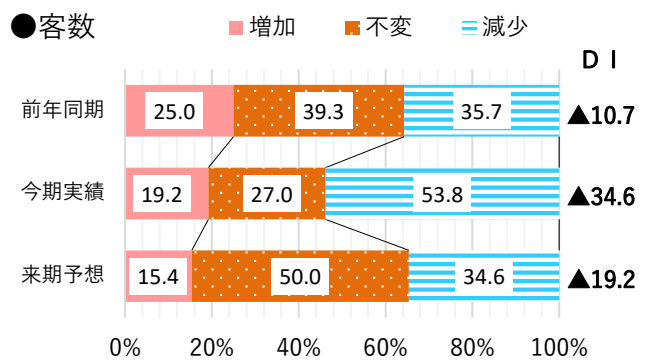
今期の客単価DIは0.0で、前年同期と比べ21.4ポイント上昇しました。

来期は、客単価がマイナスに転じると予想しています。



今期の客数DIは▲34.6で、前年同期と比べ23.9ポイント低下しました。

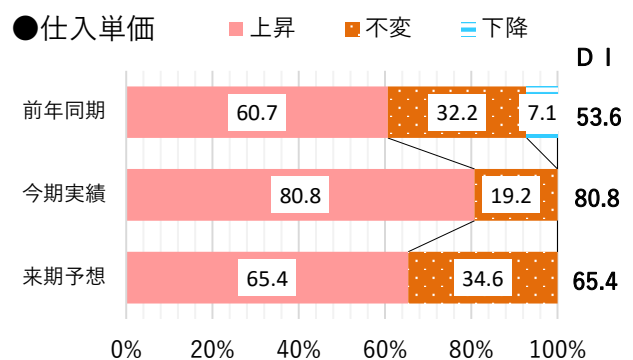
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

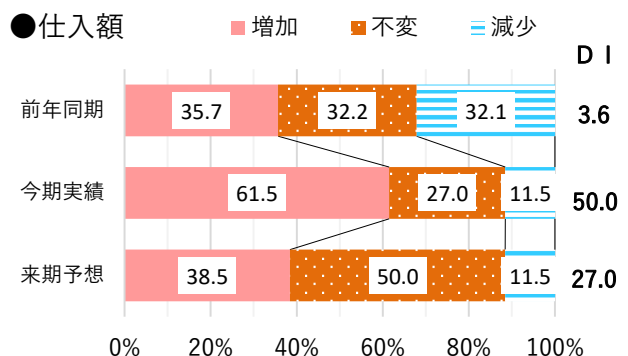
今期の仕入単価DIは80.8で、前年同期と比べ27.2ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



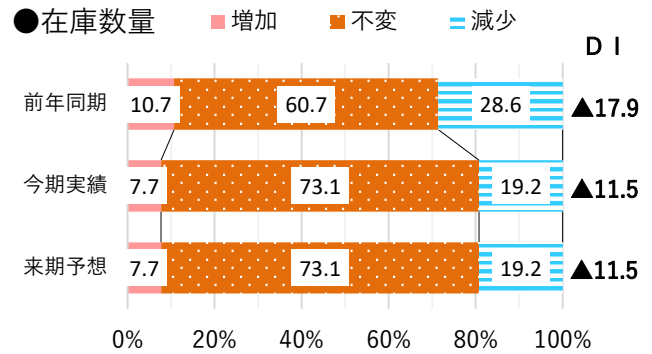
今期の仕入額DIは50.0で、前年同期と比べ46.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入額の増加傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは▲11.5で、前年同期と比べ6.4ポイント上昇しました。

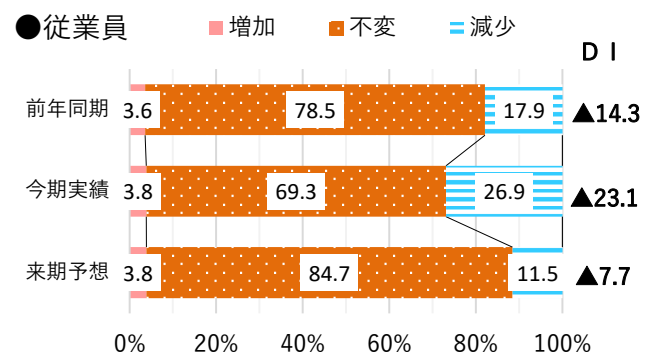
来期は、在庫数量の横ばいを予想しています。



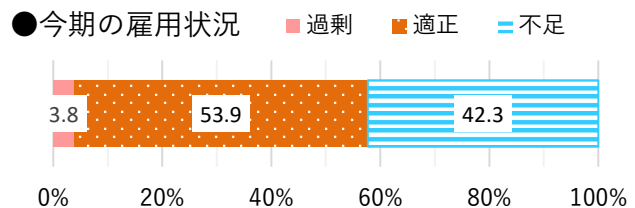
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲23.1で、前年同期と比べ8.8ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は3.8%、適正であると回答した企業の割合は53.9%、不足していると回答した企業の割合は42.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、46.1%を占めています。

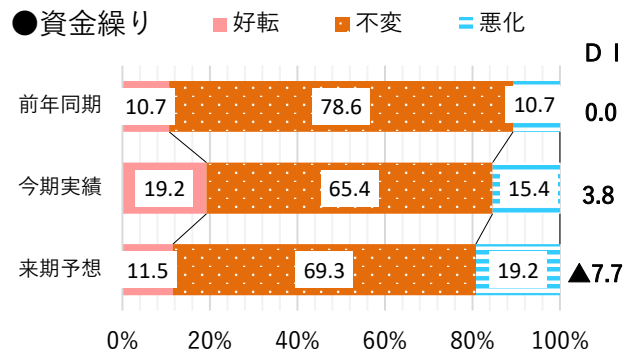
小売業全体では、適正規模の雇用が確保されている企業が53.8%、従業員が不足している企業が42.3%となりました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	1
	適正	12
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	5

資金繰り、設備投資

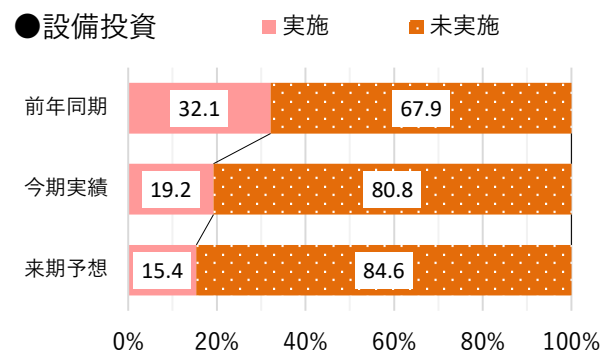
今期の資金繰りDIは3.8で、前年同期と比べ3.8ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



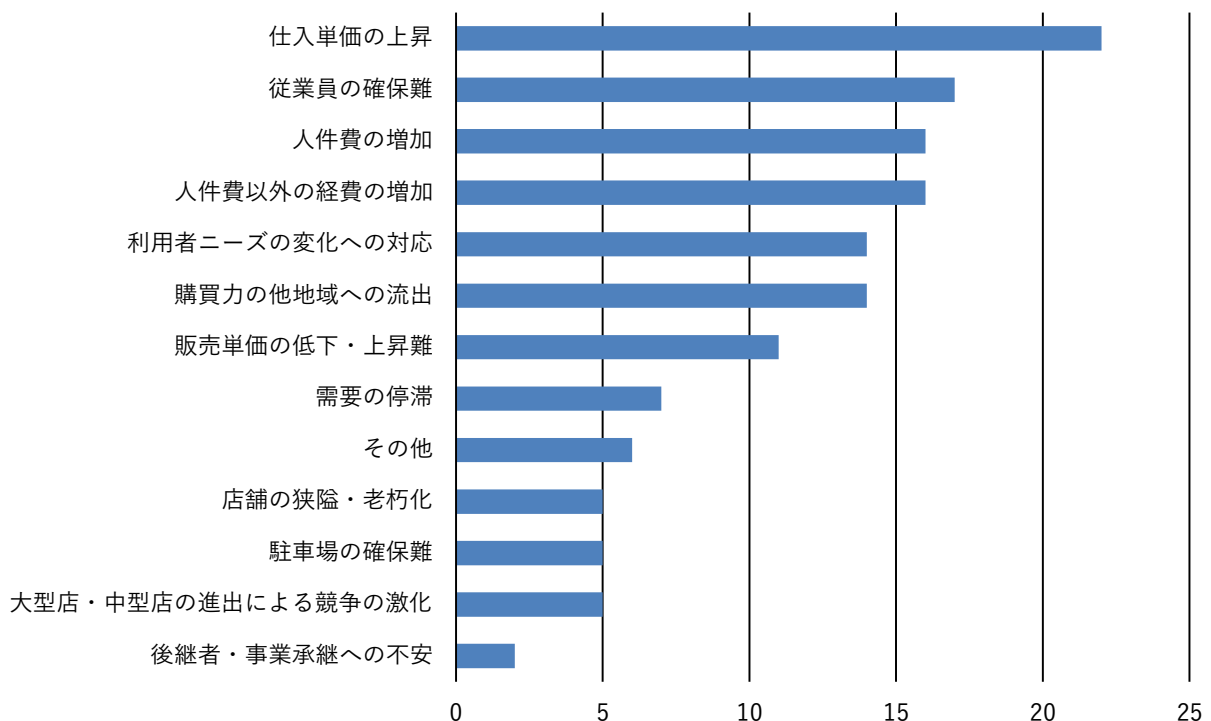
設備投資を実施した企業の割合は19.2%で、前年同期と比べ12.9%低下しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「販売設備」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は15.4%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」、「人件費以外の経費の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 原材料や包装資材、光熱費等の値上げが止まらず来期には価格の見直しも考えなければならない状況だ。少しずつ客数が回復しているのに利益が上がらず、頭を痛めている。(菓子製造小売)
- 不安定な商品供給や売上減少の可能性を見込んで、年度当初に経費を大幅に削減しておいたため収益が増加した。(衣服・身の回り品小売)
- 仕入価格が上昇しているが、販売価格に転嫁できていない。(衣服・身の回り品小売)
- 店舗数の増加により売上が増加している一方で、人材不足が続いている。(携帯電話小売)
- 昨年度は新型コロナウイルス流行の影響で、電車や飛行機等公共交通機関の利用を避け、自動車を利用する人が多かったため売上が増加した。旅行や外食を控えた分、自動車などの高額商品の購入が増えたことも影響したと思う。今期は新型コロナウイルスの流行が弱まったことで、自動車以外にお金を使う人が増え、売上の減少につながった。(自動車小売)
- 長納期対応のための無駄な経費等の増加が負担になっている。(自動車小売)
- 在庫の動きが良く、売上につながった。(自動車小売)
- 物価高の影響で出費を抑えたいお客様が多く、長年使用している物もまだ使えると考えて買い控えをしているようだ。客単価は下がっている。(家電量販店)
- 販売単価の引き上げと客数の増加で売上は確保できている。仕入価格の上昇の影響はあるが、販売単価やSKUの調整で商品を売り切っているため、収益は安定している。(大型店)
※SKU (Stock Keeping Unit) : 受発注や在庫管理を行う際の最小の管理単位
- 売上と客数は、今年6月の食料品売り場のリニューアルにより好転した。定年による退職者の増加が見込まれるため、従業員を募集しているが確保できていない。(大型店)
- 売上高と客数は微増で、外国人を含む観光客は増加傾向にある。最低賃金の改定に合わせ、既に最低賃金を上回っている従業員も賃金引き上げの対象とした。(大型店)
- コロナ禍により高まったホームセンター需要が低下しつつあり、円安による物価高の影響も感じている。(ホームセンター)
- 日用品、たばこの値上げによって客単価が上昇したが、コロナ禍を含む外部環境の変化による客数減少で相殺された。最低賃金や仕入単価の上昇で経費も増加し、状況が改善する要因はない。(コンビニ)
- 午前6時～9時勤務の従業員確保が特に困難だ。最低賃金は920円だが、時給を1,100円まで引き上げて募集をかけても応募がない。(コンビニ)
- 仕入単価が上昇しているため、販売価格への転嫁など対策を考えている。(ドラッグストア)
- コロナ禍においても利益を落とさず、健闘できていると思う。仕入単価が上昇しており、増益が難しい。(家具・建具・畳小売)
- 去年同期から大きな変化はない。(燃料小売)

[来期の業況について]

- 閑散期のため、いかに利益を上げられるかを考えたい。(菓子製造小売)
- 仕入価格の上昇傾向が続くと思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 利益の確保を重視したい。(衣服・身の回り品小売)
- 全般的に物価が上がるため、中盤以降は経済が回りだし、多少好転すると思われる。(自動車小売)
- 物価高騰による厳しい状況を見込むが、商品の提案や品揃えの工夫によって解決を図る。(家電量販店)
- インバウンド需要が高まり、売上が増加する。中国の出国制限が解除されれば、売上は倍増するだろう。市内の人口減少やバスの減便、運賃の値上げにより、市内客の取り込みは一層難しくなる。(大型店)
- 人件費、光熱費等の経費負担は今期同様に厳しくなる。売上が伸長する見込みはない。(大型店)
- 売上や客数は不変または減少を予想する。(大型店)
- 競合店の出店に伴う売上の減少を見込む。円安の影響も続くと思われる。(ホームセンター)
- 仕入単価の上昇が続くが、販売価格への転嫁は難しい。(コンビニ)
- 電気代の上昇や賃金の引き上げにより、経費の増加が見込まれる。小樽市には小売業への支援を望む。(ドラッグストア)